

令和元年度 自己評価書

学校名	和歌山市立岡崎小学校
校長氏名	岩本浩志
作成日	令和 2年 2月 14日

1 教育目標

強いからだと豊かな心を養い、自ら課題を求め、よりよく生きようとする子どもの育成

	確かな学力の向上	豊かな心の育成	健やかな体の育成	地域とともにある学校
指標	○全国学力・学習状況調査、県学習到達度調査で、特に「書く」領域での平均値を目指す。 ○宿題の提出率、90%以上を目指す。	○道徳の授業が「楽しい」「よくわかる」児童90%以上を目指す。 ○縦割りでの活動を、昨年度より増やす。	○毎日朝ごはんを食べてくる児童95%以上を目指す。 ○体力テストの平均値、全国平均を目指す。	○保護者へのアンケートで、「教育活動や子どもの様子を分かりやすく知らせている」について80%以上を目指す。 ○ゲストティーチャー等、多くの方々に学校に来ていただけるよう働きかける。
重点目標【P】	◎知識及び技能の習得 ◎子どもを主体とした、授業づくり ○思考力・判断力・表現力の育成 ○基本的生活習慣の定着	◎道徳教育を柱とした教育活動の充実 ◎人権意識を高め、自他共に大切にする教育の実践 ○縦割り活動等で、仲間づくりの充実	◎基本的生活習慣の定着 ◎体力向上の推進 ○安全教育の推進	◎家庭・地域との連携を深める ○地域人材の活用
取組の状況【D】	・めあての提示、書く活動を取り入れた授業を行った。 ・学習タイムや放課後フォローアップ、読書タイムについて、1年間継続的に取り組んだ。 ・授業力向上を図るため、1人1授業の研究を行った。 ・「家庭学習の手引き」を配布し、保護者に協力を呼びかけた。	・「道徳」の学習について、全クラスでオリエンテーションを行なった。 ・「特別の教科道徳」の授業では、考え、議論する授業をめざし、授業形態の工夫を行った。 ・縦割り掃除の他に、児童会主催の、縦割り班でのゲーム大会等を行った。 ・「あいさつ」「整理整頓」を大切に指導を行った。	・授業参観等の機会を捉えて、保護者に「早寝・早起き・朝ご飯」の啓発を行った。 ・避難訓練では、休憩時間に実施するなど、多様な形態で行った。 ・全学年でのなわとび大会と県の実施するチャレンジランキングとをリンクさせて意欲を持たせるとともに、大休憩の5分間持久走による体力作りを実施した。	・引き続き、図書ボランティアの募集を行い、図書室の環境整備や読み聞かせを行った。 ・学校便り・ホームページを活用し、子どもや学校の様子を伝えるようにした。 ・地域の団体・企業と連絡を取り、協力してもらえるよう働きかけ、学校教育活動に生かしていけるようにした。
取組の成果と課題（評価結果）【C】	・県学習到達度調査では、国語「書く」領域で5年生が、県平均と比べ9ポイント、4年生は4ポイント上回る結果となった。 ・宿題提出率が、学校平均で94%と、目標の90%を上回ることができた。	・ペアやグループでの話し合い活動を積極的に取り入れた授業が多く展開されるようになってきている。多様な考えに触れることで、授業が深まり楽しいと感じる児童が増えてきつつある。 ・縦割り掃除では、異学年を思いやる優しさが醸成され、学校全体の交流が活性化されつつある。	・毎日朝食を食べてきている児童が、90%で、目標の95%を超えることができなかった。 ・体力テストは、なかなか全国平均並の結果が出せていない現状である。しかし、運動に対して、大会などにチャレンジする児童が増えるなど、意識の向上が見られることはよいことだと感じている。	・保護者へのアンケートで、「教育活動や子どもの様子を分かりやすく知らせている」について90%の肯定的な回答が得られ目標の80%を上回ることができた。 ・地域や図書ボランティアの方々が学校に来てくれる機会が少しずつ増えてきている。今後さらに増やしていけるよう働きかけたい。
改善方法【A】 次年度に向けての	・若手教員が増えていく中、授業のレベルアップを図るための授業研究はもちろんだが、持ち物をそろえるといった授業の「構え」を大切に学級経営を行えるよう指導していく。 ・朝の読書タイムを継続し、図書ボランティアの協力も得て、文章に頼む児童を増やせるよう、活動の充実を図る。	・「道徳」の授業研究で得た成果を、他の教科や特別活動に生かし充実した授業を行うと共に、学んだことを行動に生かせるようにしていきたい。 ・縦割りグループでの活動を、より効果的になるように時間設定や、活動の場を充実させていけるよう、教育活動の見直しを行う。	・体力作りの取組を来年度も継続していき、児童に運動する大切さや楽しさを感じてもらえるよう、各学期の取組を充実させていきたい。 ・生活のリズムの大切さについて、引き続き保護者に働きかけていくとともに、情報モラル等についても、正しい知識と理解の定着に向け積極的に取り入れていく。	・「ボランティア登録カード」等活用し、地域や保護者の方々に少しでも協力してもらえるよう、根気強く啓発を行っていく。 ・基本的生活習慣の重要性を、「学習の手引き」やリーフレット等を通じて保護者に呼びかけていきたい。

3 その他の課題

<ul style="list-style-type: none"> ・全体的には、児童は落ち着いて学校生活を送ることができている。しかし、児童一人一人に応じた確かな教育活動が十分行えていない。児童の学びを保障し、学校は楽しいところであると誰にも感じてもらえるよう、学校と家庭、地域と連携しながら、取り組みを進めていく。 ・外国語活動やプログラミング教育を含めた「新学習指導要領」の全面实施にむけ、教育課程を見直しスムーズに教育活動を進めていけるよう、現職教育で研修を深めたい。 ・児童数増加に伴い、学級数が増えていくことによる教室不足の解消が、最重要課題である。
